

2026年 新春特集自動車整備・機械工具

最新技術への対応、作業環境の改善

たゆまぬ設備投資を続けて

大きな制度改革が続く中で

人材確保のためにも

2025年の自動車整備業界は、特定整備制度における必要な設備要件の一部緩和や訪問特定整備制度のスタートなど、24年のOBD（車載式故障診断装置）検査に続いて大きな制度変更が行われた。一方で、最新の車や技術への対応、人材確保、作業環境の改善など、整備事業者がやらなければならないことは多岐にわたる。変化に前向きな事業者は、仕事の効率的な作業環境の改善のための設備投資を進める。それらは人材確保にもつながる。



快適な作業環境は人材確保にもつながってくる



省力化などを理由に設備投資の動きが活発だ（昨年のオートサービスショー）

効率化・省力化に加えて暑さ対策
日本自動車機械工具協会（柳田昌宏会長）がまとめた24年度の自動車整備機械工具販売実績は、31年ぶりに1400億円を超えた。機械工具各社によると、設備投資に積極的な事業者は効率化や省力化のため、より性能の高い機器を求めている。

が発表され、高い関心を集めた。エーミングには車が適正な状態を保っていることが前提で、事前のアライメント計測が必要だ。それらをセットにした展示も見られた。バンザイの柳田昌宏社長は「アライメントテスターとエーミング機器はセットで必要な時期が続くだろう」とみている。整備機器への投資とともに、近年話題に上がるのが、夏の暑さ対策だ。ディーラーの新店舗など、新しい整備工場は冷暖房を完備しているものの、多くの事業者は整備工場の構造上、エアコンの導入自体が難しい。機械工具商社のトップは「今年も猛暑になるだろう」という点で一致しており、サンコーの永瀬道晴社長は「お客さまがどのような暑さ対策を必要としているのかを聞き取り、具体的な提案を行う」と話す。



エーミング関連の機器も高い関心を集める

OB検査は本格運用から1年以上が経過し、対象台数は56万3921台（25年11月末時点）と、24年10月末時点の329万1605台から約1.7倍に増加した。25年10月には輸入車の本格運用も始まった。現在は対象車の車検入庫が少なくても、徐々に増えることは確実だ。

OB検査は本格的に運用から1年以上が経過し、対象台数は56万3921台（25年11月末時点）と、24年10月末時点の329万1605台から約1.7倍に増加した。25年10月には輸入車の本格運用も始まった。現在は対象車の車検入庫が少なくても、徐々に増えることは確実だ。

人とクルマに優しいサービスの未来空間を創造

BANZAI

モビリティサービスの未来へ、自動車整備機器の総合商社“バンザイ”

△安全に関するご注意

・ご使用前に「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくご使用ください。

（型式・仕様は予告なく変更することがあります。）



株式会社 バンザイ

■本社 〒105-8580 東京都港区芝2-31-19

TEL 03(3769)6880(代) FAX 03(3456)4691

https://www.banzai.co.jp

E-mail: eigyo@banzai.co.jp

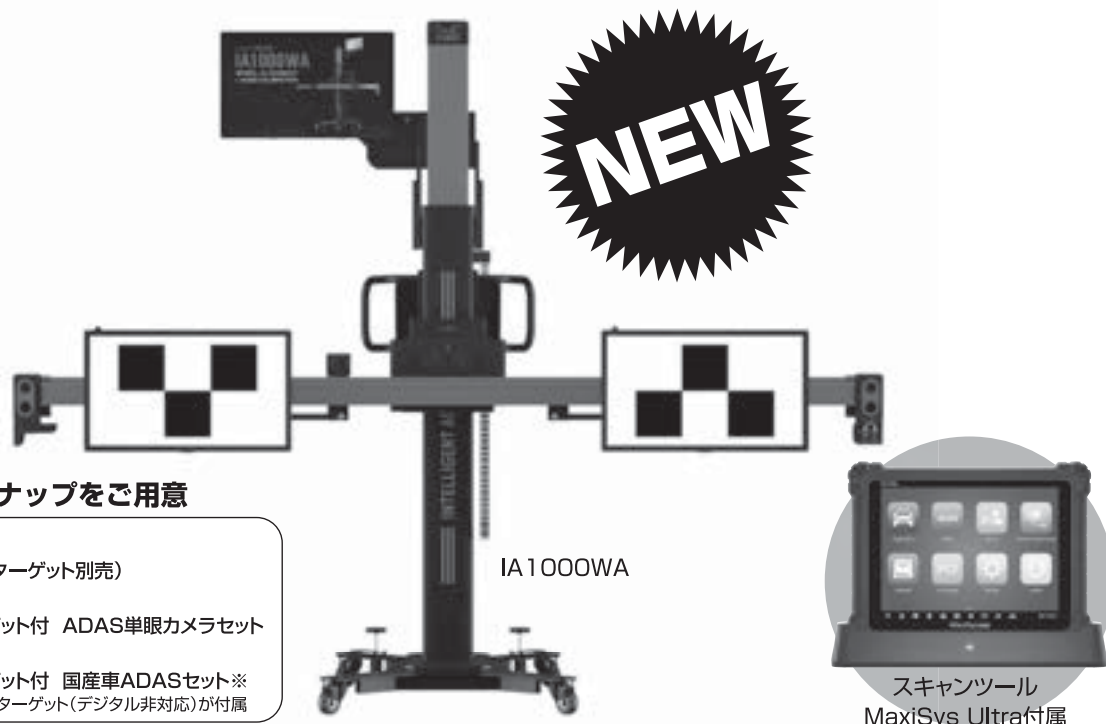
ISO9001認証取得
ISO14001認証取得

バンザイは、SDGsを推進する日本ユネスコ協会連盟の賛助会員として支援しています。

ANZENがご提案する次世代型・全自動 ADAS & アライメントシステム

AUTEL

IA1000WA
製品ページ



用途に合わせて、ラインナップをご用意

- IA1000WA-T
タイヤクランプセット(デジタルターゲット別売)
- IA1000WA-DPT
タイヤクランプ デジタルターゲット付 ADAS単眼カメラセット
- IA1000WA-ADAS-JPT
タイヤクランプ デジタルターゲット付 国産車ADASセット※
※国産車ターゲット(デジタル非対応)が付属

1. 故障診断 2. エーミング作業 3. ホイールアライメント確認 / 調整

一つで三つの機能に対応するツール **MaxiSys ADAS IA1000WA**

完全自動・ロボット制御による
前方キャリブレーション

ロボットアームによる前方ターゲットの自動
位置決めとワンタッチキャリブレーションで
手動作業を最小限に。作業効率を大幅に向上

上下方向
クロスバーの高さは上下自動調整



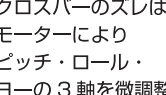
水平方向
ターゲットの位置を
自動設定



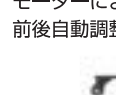
自動ターゲット表示機能付き
デジタルターゲットパネル※ 搭載

27 インチデジタルターゲットパネルと
従来の物理 LDW ターゲットの両方に対応
※ IA1000WA-T タイヤクランプセットには付属しません

姿勢制御
クロスバーのズレは
モーターにより
ピッチ・ロール・
ヨーの3軸を微調整



前後方向
モーターにより
前後自動調整



光学カメラ+自動レーザー誘導により
床面設置ターゲットの位置決めが簡単

高解像度の光学カメラとレーザー誘導技術
により、アラウンドビューモニター(AVM)、
アダプティブクルーズコントロール(ACC)、
ブラインドスポットディテクション(BSD)
などの床面設置ターゲットの位置決め設定
が、より迅速かつ確実に実施可能



MaxiSys Ultraと連携し
ターゲット設置位置に
レーザーを自動で照射

ANZEN
安全自動車株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦4-16-25
TEL(03)5441-3415 FAX(03)5441-8848
https://www.anzen.co.jp



最新の業界情報をお届け!! ANZENメルマガ会員募集中

詳しくは

ANZENニュース

検索



今年の見通し・課題・抱負

日本自動車整備振興会連合会 喜谷 辰夫会長

世界の経済状況は、米国の関税政策が各国の経済に影響を及ぼす状況下において、景気は底堅い成長を維持している。わが国の経済は、賃金・所得が伸び、民間企業設備投資や民間最終消費が底堅さを維持し、米国の関税影響が懸念された輸出も堅調に推移しており、基調として緩やかな景気回復が続いていると見ています。

自動車については、脱炭素や環境に配慮したエコカー(自然環境保全車)が普及し、また、地方における人口減少に伴う交通手段の確保や交通事故の削減を図るため、先進技術を活用して安全運転を支援するシステムが車両に搭載され、急速な技術革新の下、最新の電子部品や装置が採用されています。このように、整備業界が抱える課題は山積しておりますが、日整連・整備連としましては、自動車ユーザーの皆さまが安全で快適にクルマをお使いいただくためのお手伝いをするという、整備業界としての社会的役割を十分に果たせるよう活動していくとともに、急激に進む自動車の新技術への対応、継続検査OSSの活用促進、OBD検査、自動車検査証の電子化などへの対応に加え、整備士の人材不足や後継者難への対応を整備事業者の健全な経営の徹底を図りつつ取り組み、将来に向けて、業界の持続的な発展と経営基盤の確立に取り組んで参る所存であります。

健全経営の徹底で持続的繁栄を



さらなる利用促進につながる自動車検査証の電子化が導入され、自動車だけでなく検査・登録や点検・整備制度、事務手続きなどについても急速な電子化への対応が進められています。このような整備業界を取り巻く環境下において、自動車の整備技術の高度化に向けた対応や、一層厳しさが増している最新の機器・システムなどの情報発信を行いました。4万人を超える皆さまにご来場いただき、盛況のうちに終了することができましたことは、関係各位の絶大なご支援の賜物であり、改めて深く感謝申し上げます。

自動車整備用リフトなどの整備用機器については、依然として使用中の事故が後を絶たないため、本年もボスター・リフトの定期点検を推進するとともに、リフト点検資格者によるリフトの定期点検の推進を継続してまいります。

次に、生産性や省エネに資する検査整備用機器の普及を促進するため、中小企業等経営強化法の経営力向上設備などに係る生産性向上要件証明書の発行業務を、引き続き

日本自動車機械工具協会 柳田 昌宏会長

当協会が昨年取りまとめた2024年度における会員会社の自動車機械工具販売実績は、コロナ禍からの業績好転を背景とした設備投資需要の高まりに加え、メカニック不足への対応として作業効率化・職場環境の改善・さらにはコンプライアンス強化に資する機器の販売が伸び、23年度比で3.2%の増となり、多様な事業活動に取り組む加となりました。これにより、

「次世代モビリティ」と共に歩む整備機器をテーマに「第38回オートサービスショー2025」を開催し、自動車整備業界のニーズと自動車の新技術に対応し、

「引き続くリフトの定期点検訴え」をテーマに、

「最新機器・システムなどの情報発信を行いました。4万人を超える皆さまにご来場いただき、盛況のうちに終了することができましたことは、関係各位の絶大なご支援の賜物であり、改めて深く感謝申し上げます。

自動車整備用リフトなどの整備用機器については、依然として使用中の事故が後を絶たないため、本年もボスター・リフトの定期点検を推進するとともに、リフト点検資格者によるリフトの定期点検の推進を継続してまいります。

次に、生産性や省エネに資する検査整備用機器の普及を促進するため、中小企業等経営強化法の経営力向上設備などに係る生産性向上要件証明書の発行業務を、引き続き

引き続くリフトの定期点検訴え



「次世代モビリティ」と共に歩む整備機器をテーマに「第38回オートサービスショー2025」を開催し、自動車整備業界のニーズと自動車の新技術に対応し、

「引き続くリフトの定期点検訴え」をテーマに、

「最新機器・システムなどの情報発信を行いました。4万人を超える皆さまにご来場いただき、盛況のうちに終了することができましたことは、関係各位の絶大なご支援の賜物であり、改めて深く感謝申し上げます。

自動車整備用リフトなどの整備用機器については、依然として使用中の事故が後を絶たないため、本年もボスター・リフトの定期点検を推進するとともに、リフト点検資格者によるリフトの定期点検の推進を継続してまいります。

次に、生産性や省エネに資する検査整備用機器の普及を促進するため、中小企業等経営強化法の経営力向上設備などに係る生産性向上要件証明書の発行業務を、引き続き

日本自動車機械器具工業会 山田 勝己理事長

自動車機械器具の生産実績は1999年度を最後に500億円を下回ってしまいましたが、2024年度の実績では488億円とようやく当時の水準近くまで戻りつつあり、前年比でも1.4%となっています。

その要因として、賃金上昇や原材料費高騰などの影響で進んできた取引価格上昇の傾向が、止まらない円安傾向、さらに米国のトランプ大統領によるいゆるる「トランプ関税」のため、調査の回答自体も見通せないという声も多くありました。この中で、今後も調査を継続しリアルな状況を把握していきま

また、自動車整備業界における慢性的な人手不足に対応するための省力化投資も伸びています。当工業会としては、締め付けトルクの管理ができるレンチやより広範囲な作業ができるスキヤンツールなど、省力化に資する商品により多く開発し、国の補助金なども活用し、ユーザーの負担が少しでも減すように貢献できればと考えています。

なお、人手不足は自動車機械器具業界も例外ではなく、前述の調査結果によると雇用環境が「どちらかといえば、不足感が強い」とする割合が53.6%から68.8%に上昇しました。「適正水準が維持できている」とする割合も前年度の42.9%から28.1%

省力化機器で人手確保に貢献



また、自動車整備業界における慢性的な人手不足に対応するための省力化投資も伸びています。当工業会としては、締め付けトルクの管理ができるレンチやより広範囲な作業ができるスキヤンツールなど、省力化に資する商品により多く開発し、国の補助金なども活用し、ユーザーの負担が少しでも減すように貢献できればと考えています。

なお、人手不足は自動車機械器具業界も例外ではなく、前述の調査結果によると雇用環境が「どちらかといえば、不足感が強い」とする割合が53.6%から68.8%に上昇しました。「適正水準が維持できている」とする割合も前年度の42.9%から28.1%

検査ラインシステムの導入で車検をスピーディかつ正確に!

車検ラインシステム

IDISα アイディスアルファ

検査業務の
作業性・正確性を上げる
オンラインシステム

各車検機器をオンラインに繋げるメリット

- 車両情報の自動入力※で正確性が向上! ※オプション機能
- 入庫台数の拡大、作業員の負担を軽減!
- コンプライアンス強化、高精度測定、自動判定を実現!
- 事務用システムとの連携で作業効率アップ!

▼シンプルでわかりやすい画面表示



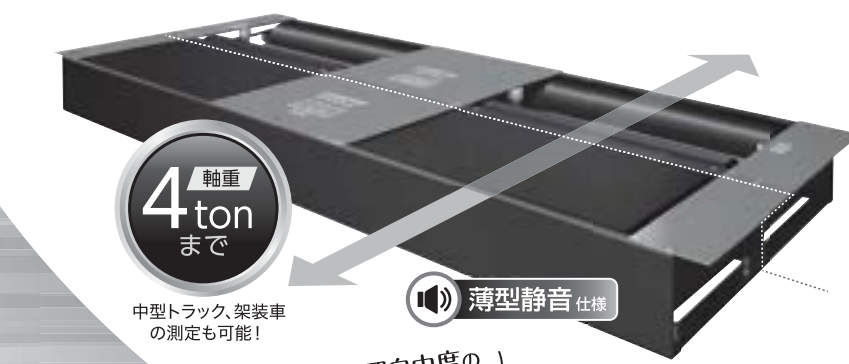
メインメニュー



検査・判定

YASAKA

サイドスリップ・ブレーキ・速度計複合試験機
トリニティテスタ ABS-400



4軸重
4ton
まで

薄型静音仕様

設置自由度の
高い

分離式・一体型

ブレーキ・スピード複合テスト部と、
サイドスリップテスト部を分離して
設置することもできます。

人手不足対策の一助にも!

販売店 株式会社 **イヤサカ**

本社 〒113-0034 東京都文京区湯島3-26-9
TEL.03-3833-6110 FAX.03-5688-7074

https://www.yasaka.co.jp

製造元 **彌栄精機株式会社**

〒270-1338 千葉県印西市松崎台1-8-4

困りごとと解決する機器に拡販余地

イヤサカ



第84期(2024年9月21日、25年9月20日)決算で売上高が初めて300億円を超えた。これは社員の頑張りと関係会社、お客さまのおかげであり、感謝しかない。高望みと販売活動を行ってきた結果であり、非

今井 祥隆社長

26年に期待する新商品は、車検機器や大型車向けリフト、洗車機だ。具体的には門型洗車機「アンブル505」は、アンテナやドアミラーなど突起物の有無をボタンで選択する必要がなく、ストレスなく洗車ができる。油圧を使わずに、1本当たり最大荷重8.5tを実現した大型車用「モバイルコラムリフト」などだ。大型車はこれまでや不得意な部分があり、ラインアップが少なかった。昨年のオートサービスショーに参考出品した大型車用12.2t柱リフトを含め、いい製品を投入する。

また、スキャンツール(外部故障診断機)、ADAS(先進運転支援システム)の整備の前提となる四輪アライメントテ

省力化・効率化視点を重視した提案

バンザイ



整備機器の販売は業種を問わず堅調に推移している。ただし、ここ3年と比べると、勢いはやや落ちてきているという印象だ。一方で、新たな設備投資の必要性を感じているお客さまは依然として多い。2024年、25年は訪問先の多くでまず「暑さ対策」、次いで「人手不足」に対応するため、従

柳田 昌宏社長

来3.5t・5.5tから4t以上に対応する機種や、バッテリーの取り外し作業をしやすくした仕様の製品が登場している。EV自体の普及はこれからだが、機器更新のタイミングでEV対応製品へ切り替えていくお客さまは多いと思う。

26年は車の電動化、自動運転技術はますます進歩する。当社としても、電動化に対応した商品の探索・提案を進めていく。EVのバッテリーを安全かつ容易に取り外すためのリフト、バッテリー診断機のほか、電気車に充電する機器など、今までなかった商品の需要が増えるだろう。

整備機器の提案は、人材不足や省力化、効率化の視点を重視している。メカニクの作業負担を減らせる商品の提案に注力している。例えば、レ

部品の仕入れ価格がこの数年間で約2.5・5倍に上昇した。値上げの流れはまだまだ収束しておらず、この状況が続くのかを危惧している。仕入れ価格の高騰をどこまで販売価格へ反映させるべきか、その判断が難しい局面が続いている。

25年度(25年4月～26年3月)の見通しは、現時点では比較的順調に推移できると見ている。ただ近年は記録的な暑さや地震、自然災害など事業活動に影響を与える外的要因が毎年起こっている。26年は穏やかな一年になることを願っている。

中谷 宗平社長

2025年は車検機器やリフトの需要は依然堅調だったものの、需要集中により一部供給が追い付かないケースがあったこともあり、メンテナンスの需要が高まった。新品が欲しくてもすぐには手に入れないお客さまは、メンテナンスを提供してきたが、お客さまは故障してから修理したり、代替品を調達したりすることが多かった。しかし、最近は定期

点検を行うことで、故障する前に修理や代替品調達に動く予防的な姿勢が高まっている。ディーラー統合による店舗の広域化・多店舗化に伴い、本社が管理すべき設備機器が短期間で急増した。その結果、工場設備機器の維持管理を機械工具商社に委託するお客さまも増加している。

26年夏には、車検時の前照灯のロービーム検査が全国で本格運用されることを踏まえ、既に25年から対応のヘッドライトテスターの需要が高まっている。これも行政制度の改正という環境変化に対応した商品だ。

機械工具商社には行政などの動きをつかんで顧客への商品提案に生かすかが問われる。当社では、月に1回の全社員を対象としたオンラインの営業研修や週次の営業活動報告書によって、関連情報を社内共有し、営業活動に活用している。情報網を生かして、整備業界の直面する課題をサポートしていきたい。

安全自動車



2025年は、これまで同様、省力化・効率化、コンプライアンス(法令順守)をキーワードとした製品への需要が底堅かった。当社が提供している画像撮影・保存・管理システム「ピークル・スナップ」の当初は、大型車ディーラーをターゲットに提供していたが、今や小型車ディーラーへも導入が加

整備環境を総合プロデュース

浜本 雅夫社長

1枚ずつ確認して手作業でフォルダー分けするた

2025年は、これまで同様、省力化・効率化、コンプライアンス(法令順守)をキーワードとした製品への需要が底堅かった。当社が提供している画像撮影・保存・管理システム「ピークル・スナップ」の当初は、大型車ディーラーをターゲットに提供していたが、今や小型車ディーラーへも導入が加

1枚ずつ確認して手作業でフォルダー分けするた

2025年は、これまで同様、省力化・効率化、コンプライアンス(法令順守)をキーワードとした製品への需要が底堅かった。当社が提供している画像撮影・保存・管理システム「ピークル・スナップ」の当初は、大型車ディーラーをターゲットに提供していたが、今や小型車ディーラーへも導入が加

1枚ずつ確認して手作業でフォルダー分けするた

2025年は、これまで同様、省力化・効率化、コンプライアンス(法令順守)をキーワードとした製品への需要が底堅かった。当社が提供している画像撮影・保存・管理システム「ピークル・スナップ」の当初は、大型車ディーラーをターゲットに提供していたが、今や小型車ディーラーへも導入が加

1枚ずつ確認して手作業でフォルダー分けするた

2025年は、これまで同様、省力化・効率化、コンプライアンス(法令順守)をキーワードとした製品への需要が底堅かった。当社が提供している画像撮影・保存・管理システム「ピークル・スナップ」の当初は、大型車ディーラーをターゲットに提供していたが、今や小型車ディーラーへも導入が加

アルティア



2025年は、これまで同様、省力化・効率化、コンプライアンス(法令順守)をキーワードとした製品への需要が底堅かった。当社が提供している画像撮影・保存・管理システム「ピークル・スナップ」の当初は、大型車ディーラーをターゲットに提供していたが、今や小型車ディーラーへも導入が加

進化に対応した製品をタイムリーに

完成検査をトータルサポート!

ALTA



完成検査はアルティアにお任せ!

完成検査システム



完成検査の未実施・測定時のヒューマンエラー防止に貢献!



見やすい測定画面で検査業務効率化を実現!

OSS申請システム・整備システムとの連動可能!



- 自検協「スマート継続 OSS システム」
- ブロードリーフ「スーパー検査員」
- DIC ジャパン「OSS 一筆書記官」
- MSP「Web 継続システム」

車両画像撮影・管理・保存システム



撮影画像の一元管理で車両の同一性を担保!



フォルダを自動生成

多層 500 枚 4649

※ナンバーは架空のもの

交換部品や修理箇所もタブレットでらくらく保存!

遠隔ロック仕様 4.0t サイドスリップデス

路板ロック状態で誤測定を防止!

新発売!



特許出願中

4WD 対応 前後連結型ブレーキ速度計複合試験機 スーパーコンビクワット

前後連結型であればより実走行に近い効率的なスピード測定を実現!

ブレーキ・スピード測定時の車両移動が不要



創造する信頼のパートナー



株式会社アルティア

〒104-6206 東京都中央区晴海 1-8-12 晴海トリトンスクエア Z 6 階

03-6777-0038

【支店】札幌・仙台・首都圏・関東信越・名古屋・大阪・広島・福岡



自動車整備の日常業務を

すばやく カンタン 正確に！

クラウド型 自動車整備業務支援システム



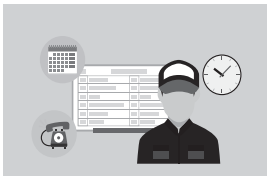
主な機能紹介



スムーズな顧客対応
お客様にまつわる全ての情報をシステムに集約し、1画面で表示させることができます。急な来店、問い合わせにもすぐに対応できます。



最適な見積り提案
入力補助と様々な履歴情報を基に、お客様ごとの最適な見積りが自動で作成されます。見積り作成でお客様をお待たせすることはありません。



作業、人の見える化
整備作業、ピット、メカニックをシステムで見える化することで作業におけるムリ、ムダが削減でき、工場全体の生産性が向上します。



様々なアプローチ手段
メールやSMS、LINEなどお客様に合わせて多彩なアプローチ手段を搭載。WEB予約、クーポンなどお客様とのデジタル接点を強化します。

Maintenance.c（メンテナンスドットシー）は、

インターネットブラウザ上で整備伝票作成や工程管理ができる、「クラウド型の自動車整備工場向け業務支援システム」です。

すぐに使えて、場所・端末に依存しない、新しい働き方を実現します。

必要な機能を必要な分だけ導入可能、組み合わせは自由自在です。

☑サブスクなのでリース契約は不要

システムが業務形態にあっているか、検討しながら試したいというニーズにぴったり。料金設定はサブスクリプション。リースよりリーズナブルで安心してお試し頂けます。

☑必要な機能を必要な分だけご利用頂けます

業務形態にあわせて必要な機能を組み合わせてご利用できます。来店促進だけ強化したい、データ管理とデータベースを強化して業務効率をあげたい、など、ニーズに応じてお選び頂けます。



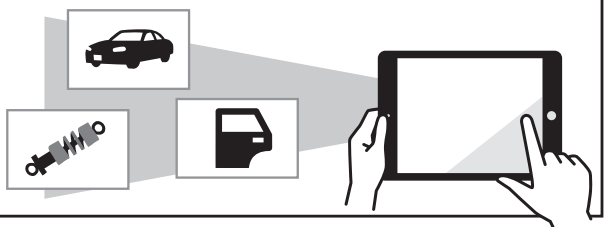
新登場！ 「証跡管理サービス」

煩わしい記録作業を、
証跡管理サービスでスマートに！

サービスの特長

- ①業務プロセス全体を可視化
- ②作業単位で何を撮影すればよいかわかります！
- ③写真整理はもう不要！

➡スマホ・タブレットで完結する画像管理



お問合せはコチラ▶

0120-66-0911

〒140-0002

東京都品川区東品川 4-13-14 グラスキューブ品川

tel.03-6433-3566 fax.03-6433-3567

商品紹介動画はこちら▶

タジマ システム



データをを使って予防整備を先回り



2025年は電子制御装置整備の日常化が進んでいくと予想されています。25年10月から輸入車のOBD（車載式故障診断装置）検査の本格運用が始まり、現場のデジタル化はなくてはならないものに移行した。特定整備制度や電気自動車（EV）への対応についても二極化がさらに進んでいくと予想されている。

2025年は電子制御装置整備の日常化が進んでいくと予想されています。25年10月から輸入車のOBD（車載式故障診断装置）検査の本格運用が始まり、現場のデジタル化はなくてはならないものに移行した。特定整備制度や電気自動車（EV）への対応についても二極化がさらに進んでいくと予想されている。

大崎 章司社長

暑さ対策商品 手広く具体的提案



2025年の販売自体は比較的に順調だった。当社が得意としているカー用品店や整備事業者が設備投資を進め、26年の夏も猛暑になるだろう。冷風機以外の暑さ対策商品を手広く扱おうと思う。例えば、体を冷やすベストも業種によって水冷、空冷などニーズが変わる。お客様がどのような暑さ対策を必要としているのかを聞き取り、具体的な提案を行う。

2025年の販売自体は比較的に順調だった。当社が得意としているカー用品店や整備事業者が設備投資を進め、26年の夏も猛暑になるだろう。冷風機以外の暑さ対策商品を手広く扱おうと思う。例えば、体を冷やすベストも業種によって水冷、空冷などニーズが変わる。お客様がどのような暑さ対策を必要としているのかを聞き取り、具体的な提案を行う。

永瀬 道晴社長

最近人手不足やメカニックの高齢化を補うため高機能なものが求められている。例えばタイヤチェンジャーは、交換作業を省力化するため、タイヤを持ち上げるリフトを取り付けている。海外の展示会でもそのような商品が増えたり、当社もラインアップを増やしている。リフトも車が重くなっているため、対応できる上位のモデルにシフトしている。

26年も設備投資は引き続き活発になるだろう。力を入れるのはリフトやタイヤチェンジャー、ホイールバルancer、暑さ対策商品などだ。タイヤチェンジャー、ホイールバルancerは高機能化が進んでおり、代替が進むだろう。リフトはすでに

26年も設備投資は引き続き活発になるだろう。力を入れるのはリフトやタイヤチェンジャー、ホイールバルancer、暑さ対策商品などだ。タイヤチェンジャー、ホイールバルancerは高機能化が進んでおり、代替が進むだろう。リフトはすでに

26年も設備投資は引き続き活発になるだろう。力を入れるのはリフトやタイヤチェンジャー、ホイールバルancer、暑さ対策商品などだ。タイヤチェンジャー、ホイールバルancerは高機能化が進んでおり、代替が進むだろう。リフトはすでに

26年も設備投資は引き続き活発になるだろう。力を入れるのはリフトやタイヤチェンジャー、ホイールバルancer、暑さ対策商品などだ。タイヤチェンジャー、ホイールバルancerは高機能化が進んでおり、代替が進むだろう。リフトはすでに

26年も設備投資は引き続き活発になるだろう。力を入れるのはリフトやタイヤチェンジャー、ホイールバルancer、暑さ対策商品などだ。タイヤチェンジャー、ホイールバルancerは高機能化が進んでおり、代替が進むだろう。リフトはすでに

26年も設備投資は引き続き活発になるだろう。力を入れるのはリフトやタイヤチェンジャー、ホイールバルancer、暑さ対策商品などだ。タイヤチェンジャー、ホイールバルancerは高機能化が進んでおり、代替が進むだろう。リフトはすでに

26年も設備投資は引き続き活発になるだろう。力を入れるのはリフトやタイヤチェンジャー、ホイールバルancer、暑さ対策商品などだ。タイヤチェンジャー、ホイールバルancerは高機能化が進んでおり、代替が進むだろう。リフトはすでに

26年も設備投資は引き続き活発になるだろう。力を入れるのはリフトやタイヤチェンジャー、ホイールバルancer、暑さ対策商品などだ。タイヤチェンジャー、ホイールバルancerは高機能化が進んでおり、代替が進むだろう。リフトはすでに

26年も設備投資は引き続き活発になるだろう。力を入れるのはリフトやタイヤチェンジャー、ホイールバルancer、暑さ対策商品などだ。タイヤチェンジャー、ホイールバルancerは高機能化が進んでおり、代替が進むだろう。リフトはすでに

サンコーは2026年も自動車整備を全力応援！

自動車整備用機器・車検機器・钣金機器・機械工具など、お客様のニーズに沿った商品を多数取り揃えております！

